

Title	巻頭の辞
Author(s)	星野, 俊也
Citation	国際公共政策研究. 2013, 18(1)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/50269
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

巻頭の辞

米原謙先生のご退職を記念し、また国際公共政策研究科関係者より先生の長年の貢献やご指導に対する心からの感謝と惜別の思いを込めて、ここに『国際公共政策研究』第18巻第1号を米原謙教授退職記念号として刊行することになりました。

米原先生は昭和47(1972)年3月に大阪大学法学部を卒業され、同49(1974)年3月に大阪大学大学院法学研究科修士課程を修了、同55(1980)年3月に同博士課程を単位取得退学されました。同年4月には下関市立大学経済学部講師に就任され、その後助教授、大阪大学教養部助教授などを歴任されました。またその間、パリ第4大学でD.E.A. en Philosophieをご取得され、その後も東京大学、パリ政治学院、北京日本学術研究センター、国立成功大学(台湾)で研究員、招聘教授などを務められました。大阪大学大学院国際公共政策研究科には平成6(1994)年に助教授としてご着任されたので創設メンバーの一人になられます。そして平成10(1998)年に教授にご昇任の後も当研究科での研究・教育にご尽力を下さり、本年3月31日をもって定年での退職となりました。

米原先生のご専門は、言わずと知れた日本政治思想史、日本政治論、ナショナリズム論などで、貴重な業績を生み出しておられます。主要なご著書としては、『日本近代思想と中江兆民』(新評論、1986年)を皮切りに、『兆民とその時代』(昭和堂、1989年)、『植木枝盛—民権青年の自我表現』(中公新書、1992年)、『日本的「近代」への問い—思想史としての戦後政治』(新評論、1995年)、『近代日本のアイデンティティと政治』(ミネルヴァ書房、2002年)、『徳富蘇峰—日本ナショナリズムの軌跡』(中公新書、2003年)、『日本政治—過去と現在の対話』(共著、大阪大学出版会、2005年)、『日本政治思想』(ミネルヴァ書房、2007年)、『ナショナリズムの時代精神—幕末から冷戦後まで』(共著、萌書房、2009年)、『東アジアのナショナリズムと近代』(共著、大阪大学出版会、2011年)など多数があり、ご執筆された論文の数々や学会その他でのご報告やご講演の記録を振り返るならば、先生がきわめて精力的に知的生産活動を続けてこられたことがわかります。

同じ大学人としてこんなことを言うと身も蓋もないのですが、大学の研究室がどこも次第に「オフィス化」していくなかで、米原先生のお部屋をお訪ねすると、そこにはいつも本当の学問の息吹が感じられました。数えきれないほどの書物と資料が所狭しと、しかも整然と並んでおり、何となく外界とは異なった時間の流れのなかで先生が思索や執筆をされておられるという、当研究科においておそらく最も学者らしい学者の研究室だったのではないのでしょうか。そうした先生を慕い、先生のご指導を得て日本政治や日本政治思想を学ぼうと先生の研究室の扉を叩く学生は後を絶たず、先生は、日本人はもとより、中国、台湾、韓国など特に近隣のアジアの学生を含む多くの留学生をみなあたたかく迎え、きめ細かい指導をされました。先生の研究室

出身の優秀な学生たちが、先生の教えを胸に各国・地域に戻り、それぞれの社会で、あるいは教壇で活躍していることを思うと、とても頼もしい限りです。

先生は早くから日本の近代のあり方、アジアの中での日本の振る舞い、そしてナショナリズムの光と影の問題の重要性に着眼し、思考と議論を重ねてこられました。これらの視点をもつ意味合いは私たちが21世紀を迎えた今日においても決して色あせることはなく、むしろ否応なくグローバル化が進む波の中で日本が右往左往をするときには必ず直面する根源的な課題であることを気づかされます。こうしたとき、先生が私たちのコンパス（羅針盤）となり、あるいは曇った私たちの目の前を照らす灯となって、進むべき方向を見出す手がかりを与えてくれたのだということにも気づかされます。

もちろん、米原先生は当研究科の創設メンバーでもありますし、特に研究科の運営と発展においてもご尽力をいただきました。とりわけ、ライブラリー関係や研究支援体制という当研究科にとっての大切な研究・教育インフラの整備においてきわめて顕著なご貢献をいただきましたことには感謝の言葉もございません。

当研究科は、平成22（2010）年3月に台湾国立成功大学政治経済学研究所との部局間学術交流協定を締結し、その後、双方の教員や学生が活発に交流するプログラムが続けられていますが、この連携は同大学と米原先生との信頼関係や学術交流がなければ決して実現しませんでした。折しも同大学で在外研究中に協定案がまとまり、署名のために成功大学を往訪した当時の松繁寿和研究科長に私も同行させていただきましたが、春のすがすがしい一日、署名式の後、先生と、そして凜とした和装でお立ち会いになられた先生の御奥様共々、先方大学関係者と懇談したことや優秀な生徒たちを輩出する有力な地元高校に当研究科のPRに訪ねたり、また、空いた時間に孔子廟など台南市の史跡を歩いたりしたことなどがいまでもなつかしく思い出されます。台湾とのこうした学術交流の経験がその後の当研究科のダイナミックな国際連携の嚆矢となったことも書き添えさせていただきます。

国際公共政策研究科は来年、平成26（2014）年に創設20周年を迎えます。先生が現役スタッフのままこの節目の年を共に迎えることがかなわないのはとても残念ですが、残された私たちとしてはこれからも先生の出身母体の名に恥じぬ研究科にさらに成長してまいりたく存じますので、引き続きご指導を賜りたく存じてやみません。そして、最後になりますが、米原先生がこれからもご健勝にて研究教育活動を続けられ、さらに多くの成果を上げられますことを祈念し、『国際公共政策研究』米原謙教授退職記念号の巻頭のご挨拶と致します。

平成25年9月

大阪大学大学院国際公共政策研究科長

星 野 俊 也